

人権に関する市民意識調査

～令和2年度報告書～

(概要版)

令和3年(2021年)6月

山口県下関市

— 目 次 —

I	調査の概要	1
II	調査結果の分析	
1	人権一般について	
(1)	基本的人権に関する認知度	1
(2)	関心のある基本的人権	2
(3)	山口県人権推進指針の理解度	2
(4)	山口県人権推進指針を知ったきっかけ	3
(5)	山口県人権推進指針の内容に対する感想	3
(6)	山口県における人権尊重意識の定着状況	3
(7)	人権を侵害された経験	4
(8)	人権を侵害されたと思った内容	4
(9)	人権を侵害された際の対処法	4
2	人権の個別分野ごとの課題	
(1)	新たに施行された人権に関する法律の認知度	5
(2)	女性に関する人権上の問題点	5
(3)	子どもに関する人権上の問題点	6
(4)	高齢者に関する人権上の問題点	6
(5)	障害のある人に関する人権上の問題点	6
(6)	罪や非行を犯した人が立ち直ろうとする場合の人権上の問題点	7
(7)	犯罪被害者に関する人権上の問題点	7
(8)	プライバシーの保護に関する人権上の問題点	7
(9)	インフォームド・コンセントに関する医療機関の対応	8
(10)	性同一性障害のある人に関する人権上の問題点	8
(11)	同和問題に関する人権上の問題点と見聞	8～9
(12)	外国人に関する人権上の問題点と見聞	9
(13)	感染症患者等に関する人権上の問題点と見聞	10
(14)	ハンセン病問題に関する人権上の問題点と見聞	10
3	人権教育・啓発の取組	
(1)	啓発活動への接触度	11
(2)	講習会・研修会・学習会等への参加経験	11
(3)	人権に関する取組の今後の条件整備	12
(4)	今後、山口県人権推進指針に盛り込むべき人権課題	12

I 調査の概要

■調査目的

市民の人権に関する意識を把握し、今後の人権に関する施策を推進する上での基礎資料とする。

■調査項目（全27問）

- ・人権一般：9問
- ・人権の個別分野ごとの課題：14問
- ・人権教育・啓発の取組：4問

■調査対象

市内に居住する18歳以上の者から829人を無作為抽出
(県抽出分 579人、市抽出分 250人)

■有効回収率

48.4% (前回…平成20年：47.8%)

II 調査結果の分析

1 人権一般について

(1)

基本的人権に関する
認知度 <P5>

あなたは、基本的人権は侵すことのできない永久の権利として、憲法で保障されていることを知っていますか。(✓は1つ)

注：<P□>は報告書の該当頁

	R2	H20	山口県 (R1)
知っている	86.5	88.0	87.8
知らない	13.0	11.1	10.9
無回答	0.5	0.8	1.3

単位：%

- ・「知っている」(88.0%→86.5%)は、前回調査より1.5ポイント低くなっている。
- ・県調査(87.8%)とあまり差はみられないが、平成29年度内閣府調査(81.4%)より5.1ポイント高くなっている。

(2)

関心のある
基本的人権 <P6>

【問1で「1知っている」を選んだ人のみ回答】

憲法で保障されている基本的人権のうち、あなたが日常生活の中で、特に関心をもっているものはどれですか。

(✓はいくつでも)

※前回調査では「✓」は3つまで

項目	R2	H20	山口県 (R1)
自由権 (思想や学問の自由、信教の自由、言論や結社の自由、居住・移転・職業を選ぶ自由など)	77.8	74.3	76.0
平等権 (法の下での平等、男女両性の平等、選挙権の平等)	72.3	64.3	68.4
生存権 (健康で文化的な最低限度の生活を営む権利)	66.2	60.7	62.0
教育を受ける権利	56.9	30.4	55.6
政治に参加する権利 (選挙権、最高裁判所裁判官の国民審査など)	39.0	12.3	35.3
仕事に就いて働く権利	37.6	12.9	37.1
働く人が、団結・団体交渉・団体行動する権利	26.0	7.4	28.3
裁判を受ける権利	22.5	2.3	22.4
その他	1.2	0.5	0.6
わからない	1.7	0.9	2.7
無回答	5.8	4.2	5.9

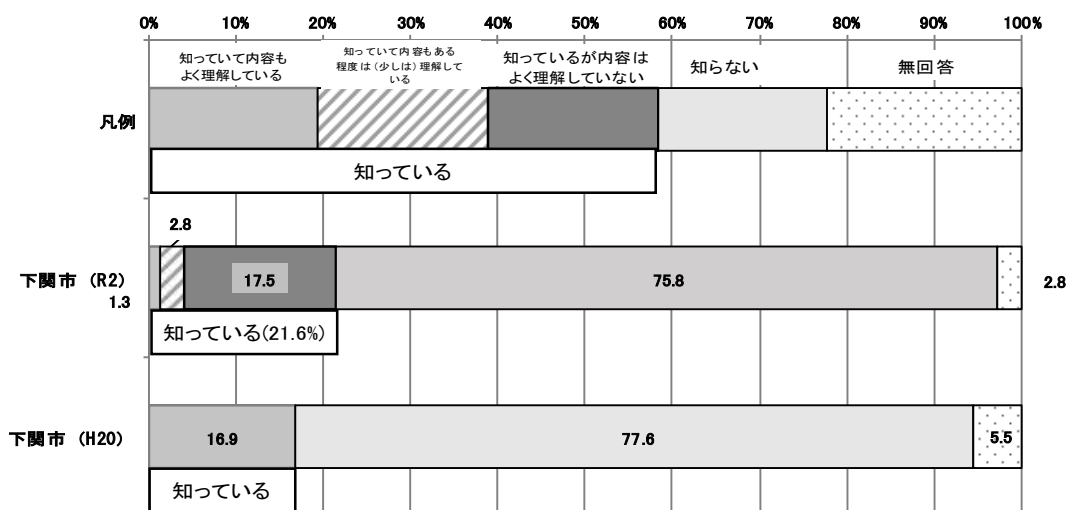
- ・上位の「自由権」「平等権」「生存権」「教育を受ける権利」4項目は5割を超えている。
- ・前回調査と比較すると、上位3項目は順位も回答率もほぼ同じである。

(3)

山口県人権推進指針
の理解度 <P7>

山口県では、「山口県人権推進指針」を策定し、人権に関する諸施策を総合的に推進しています。あなたはこの「山口県人権推進指針」を知っていますか。(✓は1つ)

※前回調査では選択肢は2つ



- ・「知っている (計)」(16.9%→21.6%)は、前回調査より4.7ポイント高くなっているが、県調査(30.9%)より、9.3ポイント低くなっている。

(4)
山口県人権推進指針
を知ったきっかけ
<P8>

【(3)で「知っている」と答えた人のみ回答】
あなたが、山口県人権推進指針を知ったきっかけは何からですか。
(✓はいくつでも)

サンプル数が
少ないため
参考まで

- ・「県・市町の広報紙」と答えた人が70.9%で最も高く、以下、「県・市町のホームページ」(14.0%)、「人権に関するイベント(人権フェスティバル等)」(9.3%)、「研修会・講習会」(9.3%)の順となっている。

(5)
山口県人権推進指針
の内容に対する感想
<P9>

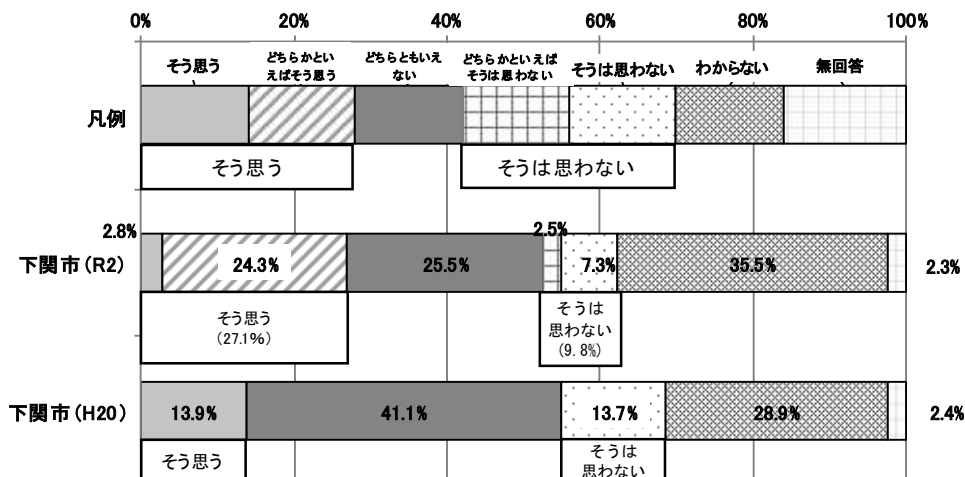
【(3)で「知っている」と答えた人のみ回答】
山口県人権推進指針について、どのように思いましたか。
(✓は1つ)

サンプル数が
少ないため
参考まで

- ・山口県人権推進指針を『知っている(計)』と答えた人(86人)に、その感想を尋ねたところ、「わかりやすい」と答えた人が9.3%、「共感できる」と答えた人が23.3%となっており、これらを合わせた『肯定的な感想(計)』は、32.6%である。
- ・「むずかしくてわかりにくい」と答えた人が38.4%、「もっと内容を充実すべき」と答えた人が17.4%となっており、これらを合わせた『否定的な感想(計)』は55.8%である。

(6)
山口県における人権
尊重意識の定着状況
<P10>

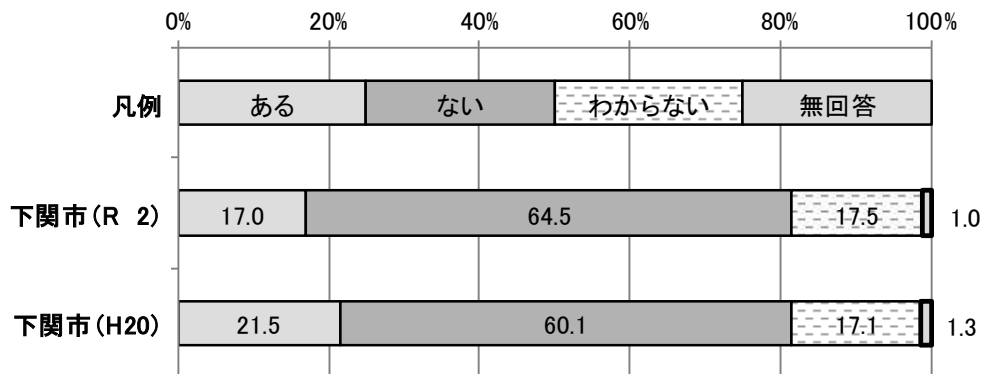
今の山口県は、10年前と比べて、人権が尊重された県になっていると思いますか。あなたの気持ちに一番近いものをお答えください。(✓は1つ) ※前回調査では選択肢は4つ



- ・『そう思う(計)』(13.9%→27.1%)は、前回調査より13.2ポイント高くなっている。
- ・『そうは思わない(計)』(13.7%→9.8%)は、前回調査より3.9ポイント低くなっている。

(7)
人権を侵害された
経験 <P11>

あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(✓は1つ)



- ・前回調査より、「ある」(21.5%→17.0%)は4.5ポイント低く、「ない」(60.1%→64.5%)は4.4ポイント高くなっている。
- ・「ある」は、県調査(21.9%)より4.9ポイント低く、平成29年度内閣府調査(15.9%)より1.1ポイント高くなっている。
- ・性別にみると、「ある」の回答割合は、女性(20.7%)が男性(13.0%)より7.7ポイント高くなっている。

(8)
人権を侵害されたと思
った内容<P12>

【(7)で「ある」を選んだ人のみ回答】

あなたが侵害されたと思った内容はどのようなものでしたか。
(✓はいくつでも)

サンプル数が
少ないため
参考まで

- ・「地域や職場などでの仲間はずれ(他人からの悪口、かげ口など)」と答えた人が41.2%で最も高く、以下、「名誉き損、侮辱」(36.8%)、「暴力・虐待(家庭内を含む)、脅迫、強要」(27.9%)の順となっている。

(9)
人権を侵害された際
の対処法 <P13>

【(7)で「ある」を選んだ人のみ回答】

そのとき、あなたはどうされましたか。(✓はいくつでも)

サンプル数が
少ないため
参考まで

- ・「黙って我慢した」と答えた人が63.2%で最も高く、以下、「親しい友だち、職場の同僚や上司に相談した」(29.4%)、「親、きょうだい、子どもや親戚に相談した」(25.0%)、「相手に抗議した」(23.5%)の順となっている。

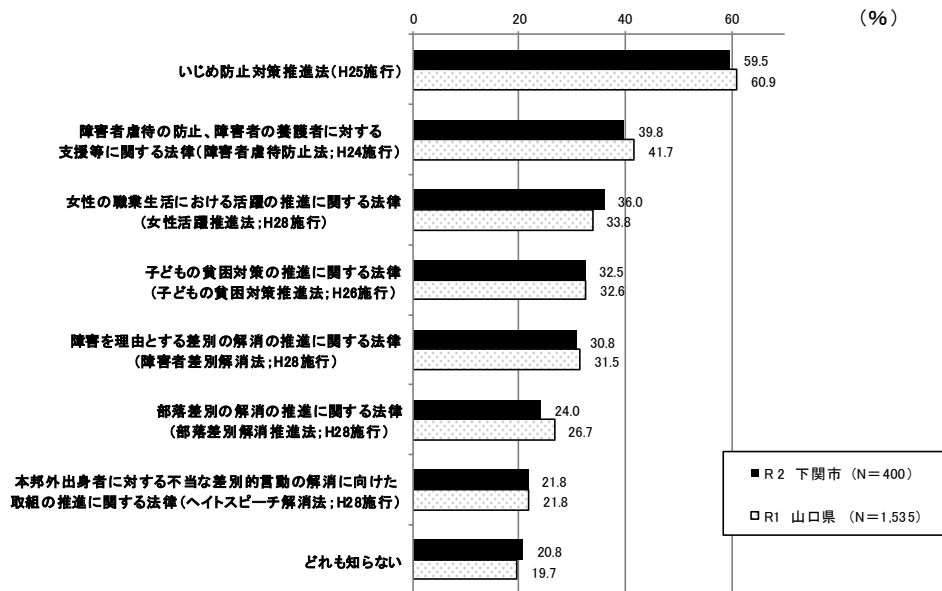
2 人権の個別分野ごとの課題

(1)

新たに施行された人権に関する法律の認知度<P14>

新

あなたは、以下の法律が施行されたことを知っていますか。
(知っているもの全てに✓してください。)



- ・「いじめ防止対策推進法」(59.5%)が最も高く、「どれも知らない」(20.8%)の回答割合は全体の約2割となっている。
- ・性別にみると、男性は女性に比べ「障害者差別解消法」(9.7ポイント差)、「部落差別解消推進法」(11.7ポイント差)、「ヘイトスピーチ解消法」(6.5ポイント差)の認知率が高くなっている。

(2)

女性に関する人権上の問題点<P16>

あなたは、女性に関することからで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

- ・「男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家事」など)をおしつけられること」(43.3%→41.0%)と「職場における採用時や昇進・昇格などの差別待遇」(40.8%→32.0%)の上位2項目は、前回調査と順位が同じである。
- ・「職場におけるセクシャル・ハラスメント」(20.8%→30.3%)は前回より9.5ポイント高く、順位も6番目から3番目の項目に上昇している。
- ・性別にみると、男性は女性に比べ「職場におけるセクシャル・ハラスメント」(11.4ポイント差)、「家庭内における配偶者に対する暴力(酒に酔ってなぐるなど)」(10.3ポイント差)の回答割合が高くなっている。

(3)
子どもに関する
人権上の問題点
<P18>

あなたは、子どもに関することがらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

- ・「子どもの間でいじめが行われていること」(38.1%→46.0%)や「大人(保護者)が暴力や虐待を行ったり、児童買春等を行うこと」(39.3%→45.5%)が高く、前回調査よりそれぞれ7.9ポイント、6.2ポイント高くなっている。
- ・前回調査で回答割合が高かった「食事や健康管理など、養育に本気で取り組まない保護者がいること」(40.6%→27.8%)、「成績だけを気にかけている保護者がいること」(38.3%→23.3%)は、順位を大きく下げている。
- ・性別では、男性は女性に比べ「成績だけを気にかけている保護者がいること」の回答割合が高くなっている(14.9ポイント差)。

(4)
高齢者に関する
人権上の問題点
<P20>

あなたは、高齢者に関することがらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

- ・「悪徳商法や特殊詐欺、財産侵害など高齢者が被害者となる犯罪が増加していること」(60.0%→58.8%)が最も高く、次いで、「経済的に自立が困難なこと」(41.6%→34.8%)の順となっており、前回調査同様となっている。
- ・新たな選択肢である「認知症について社会の理解が不十分であること」(26.8%)は順位が3番目と高くなっているが、一方で「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」(37.6%→22.8%)については14.8ポイント低くなり、順位を下げている。

(5)
障害のある人に関する
人権上の問題点
<P22>

あなたは、障害のある人に関することがらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

- ・「障害のある人や障害について人々の理解が不足していること」(58.0%→50.0%)が最も高く、次いで「働く場や働くための支援が十分でないこと」「差別的な言動をされること」が高くなっている。
- ・前回調査と比較すると、「働く場や働くための支援が十分でないこと」(51.9%→34.3%)の回答割合が17.6ポイント低下している。

(6)

罪や非行を犯した人が
立ち直ろうとする場合
の人権上の問題点
<P24>

あなたは、罪や非行を犯した人が、罪をつぐなって社会の一員として立ち直ろうとする場合、どのような問題があると思われますか。(✓は2つまで)

- ・「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」(63.6%→50.0%)が最も高く、次いで、「就職、職場で不利な扱いを受けること」(44.4%→37.5%)であり、この2つが主な回答となっている。
- ・前回調査と比較すると、「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」の回答割合が13.6ポイント低下している。
- ・「メールやインターネットで悪質な書き込みや嫌がらせをされること」(4.0%→10.8%)は、前回調査の6位から3位に順位を上げている。

(7)

犯罪被害者に関する
人権上の問題点
<P26>

あなたは、犯罪被害者に関することがらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

- ・「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」(45.9%→48.8%)が最も高く、次いで、「犯罪行為によって、精神的なショックを受けること」(46.9%→47.0%)であり、この2つが主な回答となっている。
- ・前回調査と比較すると、「犯罪行為によって、経済的負担を受けること」の回答割合が、13.9ポイント低下しており、順位も5位から8位へ下がっている。

(8)

プライバシーの保護
に関する人権上の
問題点<P28>

あなたは、プライバシーの保護に関することがらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

- ・「個人情報の不正な取扱いや信用情報、顧客データ等を盗用・横流し・流出(紛失)すること」(69.3%→66.0%)が最も高い。
- ・前回調査と比較すると、「知らない企業や団体からダイレクトメールが届いたり、訪問や電話による勧誘を受けること」(69.1%→55.8%)の回答割合が13.3ポイント低くなっているのに対し、「インターネットを介して大量の個人情報が流出する事件が多発していること」(7.2%→13.5%)の回答割合が8.8ポイント高くなっている。

(9)
インフォームド・コンセント
に関する医療機関の
対応<P30>

「インフォームド・コンセント」(治療の目的や内容を納得できるように患者に説明し、了承を得て治療をすること。)が患者の権利として重視されていますが、あなたがこれまでに受けた医療機関の対応は、次のうちどれに近いですか。(✓は1つ)

- ・「本人又は家族に対して十分な説明を受けた」(47.9%→54.5%)が最も高く、前回調査と比較すると、6.6ポイント高くなっている。
- ・「本人又は家族への説明に対して不満を感じた」(8.5%→4.0%)は4.5ポイント低下した。

(10)
性同一性障害のある
人に関する人権上の
問題点<P31>

新

あなたは、生物学的な性ところの性が一致しない性同一性障害のある人に関することがらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

- ・「性同一性障害について人々の理解が不足していること」と答えた人が55.5%で最も高く、次いで、「差別的な言動をされること」(35.8%)、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」(32.8%)と続いている。
- ・「わからない」が約2割(20.8%)となっており、他の項目と比較して高くなっている。

(11) ①
同和問題に関する
人権上の問題点
<P32>

また、あなたは、同和問題に関することがらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

- ・「結婚問題で周囲の反対を受けること」(21.8%→37.3%)が最も高く、次いで、「就職、職場で不利な扱いを受けること」(7.7%→31.8%)、「差別的な言動をされること」(21.4%→29.0%)の順となっている。
- ・前回調査と比較すると、最も回答割合の高かった「偏見が残っていること」(51.6%)の選択肢がなくなったことなどもあり、ほとんどの選択肢において回答割合が高くなっている。

(11) ②

同和問題に関する
人権問題を見聞きし
た経験<P33>

新

あなたが、過去5年間に、実際見聞きしたのがありますか。
(✓は3つまで)

- ・「見聞きした経験」では、「結婚問題で周囲の反対を受けること」(11.3%)が最も高く、次いで「差別的な言動をされること」(8.8%)、「身元調査をされること」(7.5%)の順となっている。
- ・具体的な事象を表す選択肢の回答割合については、すべて「見聞きした経験」が、「問題点」の回答割合を大きく下回っている。

(12) ①

外国人に関する
人権上の問題
<P34>

あなたは、外国人に関することからで、問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓は3つまで)

- ・「言葉が異なるため、保健・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと」(50.5%→42.8%)が最も高い。
- ・新たな選択肢である「ヘイトスピーチ(特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動)を伴うデモ等が行われること」は5番目の問題点となっている。

(12) ②

外国人に関する人権
問題を見聞きした
経験<P35>

新

また、あなたが、過去5年間に、実際に見聞きしたのがありますか。(✓は3つまで)

- ・「見聞きした経験」をみると、「言葉が異なるため、保健・医療・福祉、防災、教育などの日常生活に必要な情報が得にくいこと」と答えた人が8.3%で最も高く、次いで、「病院や公共施設等に外国語による表示が少ないこと」(7.3%)、「言葉や習慣などが違うので、社会に受け入れられにくいこと(嫌がらせを受けること)」(6.8%)、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(5.0%)の順となっている。
- ・具体的な事象を表す選択肢の回答割合については、すべて「見聞きした経験」が、「問題点」の回答割合を大きく下回っている。

(13) ①

感染症患者等に関する人権上の問題点
<P36>

あなたは、感染症患者等（H I V感染者・患者等）に関すること
がらで、問題があると思われるのはどのようなことですか。
(✓は3つまで)

- ・「治療や入院を断られること」(33.4%→31.5%)が最も高い。
- ・前回調査と比較すると、「治療による薬害の被害を被っていること」(30.8%→16.0%)は14.8ポイント低く、回答順位も下がっている。

(13) ②

感染症患者等に関する人権問題を見聞きした経験<P37>

新

また、あなたが、過去5年間に、実際見聞きしたのがありますか。(✓は3つまで)

- ・「特にない」(45.3%)の回答割合は4割強となっている。
- ・「見聞きした経験」の回答割合が、「問題点」の回答割合をはるかに下回っている。

(14) ①

ハンセン病問題に関する人権上の問題点
<P38>

あなたは、ハンセン病問題(ハンセン病患者・元患者とその家族)
に関することがらで、問題があると思われるのはどのようなこと
ですか。(✓は2つまで)

- ・「差別的な言動をされること」(32.3%→30.8%)が最も高い。
- ・前回調査と比較すると、中心的な3つの回答のうち「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むことが困難なこと」、「ふるさとへの帰郷の問題等地域社会での理解が十分でないこと」の回答割合は低下しているが、「差別的な言動をされること」の回答割合はほとんど変わらない。

(14) ②

ハンセン病問題に関する人権問題を見聞きした経験<P39>

新

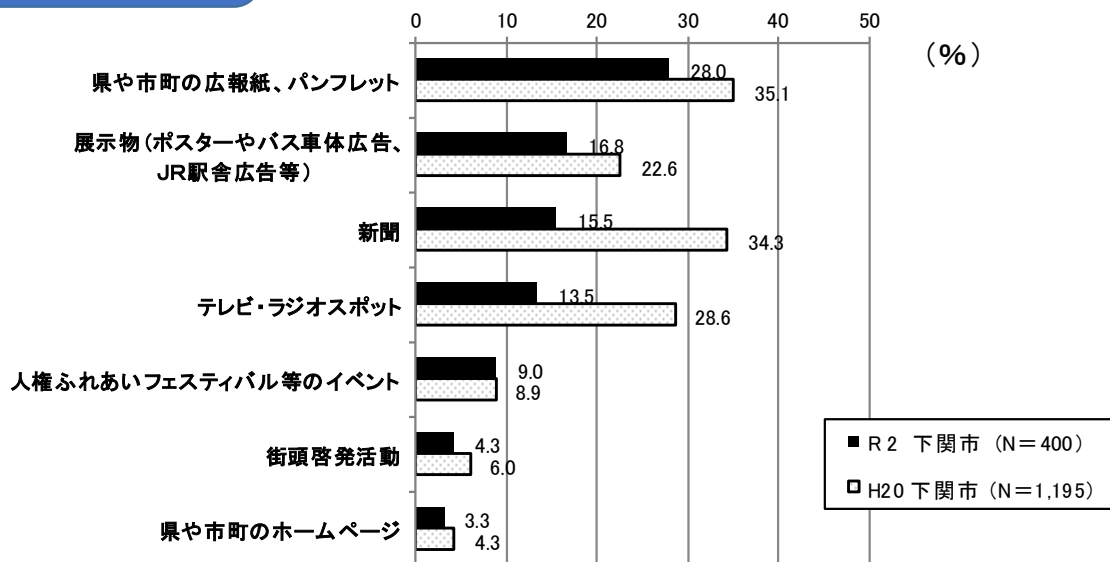
また、あなたが、過去5年間に、実際見聞きしたのがありますか。(✓は2つまで)

- ・「特にない」(40.3%)の回答割合は4割強となっている。
- ・「見聞きした経験」の回答割合が、「問題点」の回答割合をはるかに下回っている。

3 人権教育・啓発の取組

(1) 啓発活動への接触度 <P40>

山口県では、「山口県人権推進指針」に基づき、人権に関する施策を総合的に推進していますが、あなたは、これまでに県又は市町が実施した次のような行事に参加したり、人権問題に関連した記事等を見たり読んだりした経験がありますか。(✓はいくつでも)

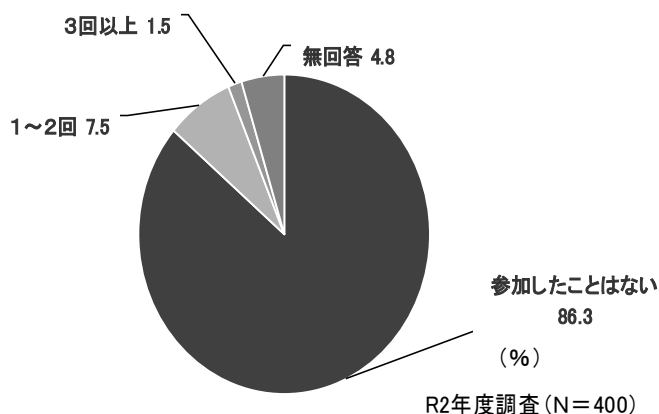


- ・「県や市町の広報紙、パンフレット」(35.1%→28.0%)が最も高い。
- ・前回調査と比較すると、ほとんどの啓発活動の回答割合が低くなっており、中でも「新聞」は18.8ポイント低くなっている。
- ・県調査と比較すると、本市で2位の「展示物」が山口県では4位となっている。

(2) 講習会・研修会・学習会等への参加経験 <P41>

新

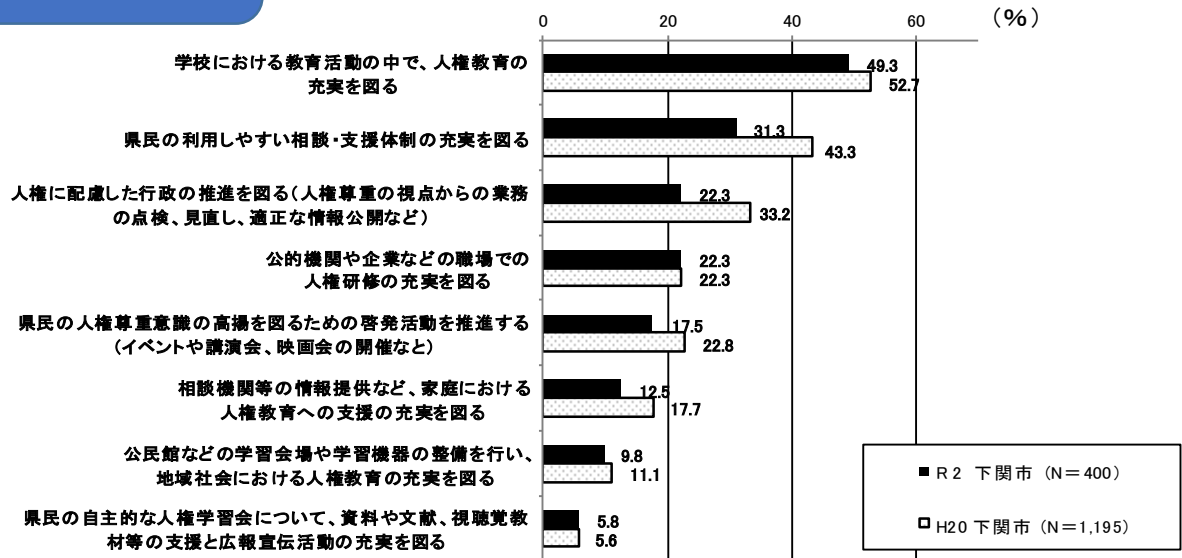
「山口県人権推進指針」では、様々な人権問題を正しく理解するため、県民に自主的な取組をするよう求めています。あなたは、県や市町のほか、職場や民間団体等が実施した講演会・研修会・学習会等に、過去5年間で何回参加されたことがありますか。



- ・参加したことはない(86.3%)と答えた人は8割を超えている。
- ・県調査と比較すると、「1~2回」と「3回以上」を合わせた『参加経験あり』は、5.8ポイント低く、「参加したことはない」と答えた人は、6.2ポイント高くなっている。

(3)
人権に関する取組の
今後の条件整備
＜P42＞

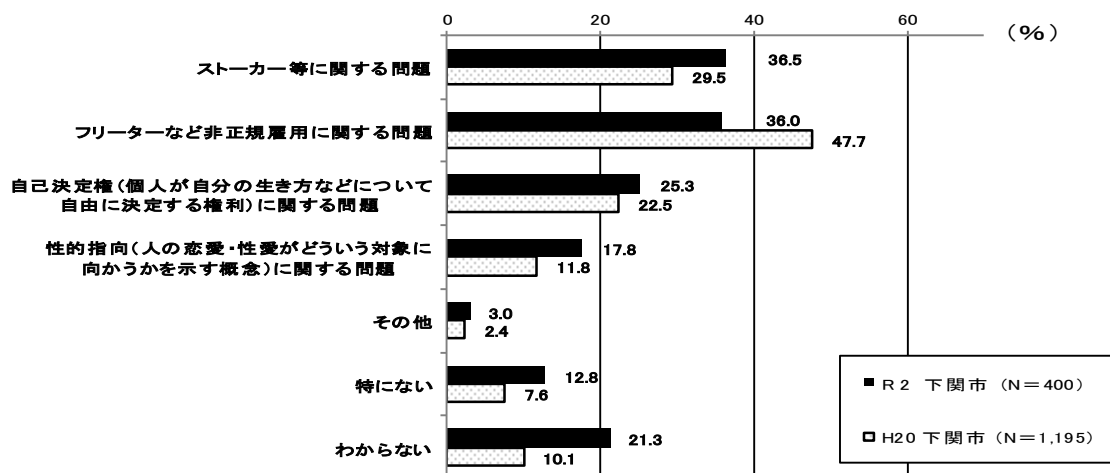
あなたは、今後、人権に関する取組として、どのような条件整備に力を入れていけばよいと思われますか。(✓は3つまで)



- ・「学校における教育活動の中で、人権教育の充実を図る」が49.3%と最も高い。
- ・前回調査と比較すると、「県民の利用しやすい相談・支援体制の充実を図る」は12.0ポイント、「人権に配慮した行政の推進を図る」は10.9ポイント低くなっている。

(4)
今後、山口県人権推進指針に盛り込むべき人権課題＜P43＞

あなたは、人権に関わる課題として、今後、「山口県人権推進指針」にどのような問題を盛り込む必要があると思われますか。(✓はいくつでも)



- ・「ストーカー等に関する問題」(29.5%→36.5%)と、「フリーターなど非正規雇用に関する問題」(47.7%→36.0%)がほぼ同率で高い。
- ・前回調査と比較すると、「ストーカー等に関する問題」は7.0ポイント高くなっているのに対し、「フリーターなどの非正規雇用に関する問題」は11.7ポイント低くなっている。